

【ねがいましては】

平成24年8月27日

KYOWA SCHOOL

第262号

「しあわせの感じ方」

久しぶりにラジオから流れてくる言葉に耳が傾きました。ブータンへの観光客がこの1年で倍増したという内容でした。一日滞在するごとにブータン政府へ2万円を納めなければならないのだそうですが、それでもブータンへの観光客の中で日本人は第一位なのだそうです。

昨年来日したブータン国王の話題が火をつけたことは間違いなさそうなのですが、それによって日本の方々、真の幸せとは何なのかを真剣に考え始めたのかもしれない。

高額の費用を納めながらもブータンへ観光をする日本人たち。高度経済成長を成し遂げた方々が、物豊かな生活を手に入れながらも、これだけの人気を得ているのはどういうことなのか……。

物はたっぷりあっても、心は全く豊かさを覚えていない……。物を手に入れるのも便利、移動するのも便利、情報を得るのも便利、「きつい・汚い・危険」からも開放され、清潔感豊かに生活できている。ライフラインもしっかり充実、何困ることもないはず。

でもこころはしっかり寂しいまま……。孤独感がようしゃなく怒涛のごとく襲ってくる。満員電車の中では他人と他人が肌を付き合わせ、たのむから面倒なことに巻き込むなよ、厄介なことに巻き込むなよ、と、念じながら乗り続ける……。

家族団欒、せっかく全員揃っても何か殺伐とした雰囲気が漂っている。静かな部屋の中にひとつだけ響くテレビの音声……。家族であるはずなのに、何か他人行儀な空気が漂います。

なぜ、いつの間にか親と子の間に交わされる言葉が、あるひとつのものに絞られてしまいがちになってしまっているのかもしれない。それは紛れもない『成績』。

一方、にぎやかな家庭に響く子どもの声、毎日の学校での出来事をつぶさに話す子。それを聞きながら相づちを打ったり反論したり、また、親の子ども時代の話に感心したり……。たわいのない会話なのですが、その中にはあるひとつの親の技が隠れています。成績など、評価に係わる話には、あえて触れないようにコントロールしています。

中でも、『他との比較』、これには充分な配慮をします。けっして他のお子さんを批判の対象にしたり、自分の過去を持ち上げ、我が子を比較したり。ただひとつ、生き方としての基本についてだけは筋が一本通っています。他の家はどうかであっても我が家はそうなんだ……。たとえば、『絶対に他人の悪口を言わない』とか、『常にありがたいの気持ちを目に見る人に向けて』とか……。 (かっこいい！)

よくお子さんのことでご相談を受けることがあるのですが、多く見られるのが、お子さんとの間に何がしかの違和感を覚えていらっしゃる方が多いことです。以前のようになんでも話してもらえなくなったとか、口数が少なくなったなど……。お母様の中にくずぶるひとつのこだわり、『成績』……。これが邪魔をしていることに気づいていても、なかなか離れない成績……。

成績制度に一喜一憂している日本の家族、数字による評価のないブータン。その国々が取っている独自の評価制度に見事に乗ってしまっている国民。それが今の日本人。とても大きな表現になっていますが、雲の上からながめてみるとそんな気がしてなりません。

今年から小学校教員として旅立ったSちゃん、初の担任、初の夏休み、お初だらけなのですが、子どもたちのとりに寄り添っていられる時間が不足しがちなご様子。大学時代に同じ志で、同じく今年から教員として旅立った彼女のご友人は、すでに学校へ行けなくなりつつあるそうです。辛いのですね。

誰が悪いでもない、悪いのはただひとつ……。『制度』です。子も親も教員も、皆この『制度』に苦しみをいただいています。制度を当たり前として受け取るあまりに、そこから発生した様々な現象は、その矛先を我が子、親、教員に向けてしまいがちです。

夏休み、ランチ講習の中でも4日間だけ丸一日があります。午前中から約8時間、昼食をはさみ、昼休みもなく向かい続ける彼ら……。口々に出てくる言葉、「このまま9月になっても朝からここで向かいたい。」

誰から背中を押されるわけでもなく、誰から命令されるでもなく、ただ自分のペースを守りながら歩く。学校が当たり前だった『制度』から180度反対側で歩く彼らの姿は、水を得たカエルさながらです。その姿を一番見ていただきたいのは、教育に携わる方々です。制度の中で、その範疇を脱することのないように日々送られている指導者の方々に、彼らの黙々と向かい続ける瞳をご覧いただきたいのです。

ブータンの子どもたちが学校で見せる瞳をここでもご覧いただけそうです。実際に私自身がブータンへ行ったわけではないので確信は持てないのですが、輝いていることだけは確かです。

特に中学生たちには学校から長期にわたり受け取ってしまった受動的勉強像があります。そこから開放された姿を見ながら、私もいそがしく質問にこたえます。そんな彼らから受け取るもの……。しあわせ……。です。

君たち……。しあわせになろうね。ありがとね。